

持続可能な地域をつくる担い手を育てる社会科授業の研究

研究代表者 山神達也（和歌山大学教育学部）
共同研究者 阪中宣之（九度山町立九度山中学校）
橋本大貴（橋本市立紀見東中学校）
山口康平（和歌山大学教育学部附属中学校）

I はじめに

本共同研究の目的は、2023年度11月に実施された「第29回近畿中学校社会科教育研究会和歌山大会」（近畿大会）での地理的分野の公開授業に向け、「持続可能な地域の担い手を育てる社会科授業」がどのようなものか議論し、実際の公開授業の内容を作っていくことにあった。ただし、近畿大会での公開授業の実施に向けては、2022年度の冬から和歌山県中学校社会科教育研究会（和県中社研）地理的分野研究プロジェクトチームが立ち上がっており、事前準備がすでに進められていたため、2023年5月から研究協力者として上記プロジェクトに山神も途中参加することになった。形式的には上記プロジェクトと本共同研究事業との連携事業となったが、実際に研究を推し進めたのは上記プロジェクトチームである。以下では、まず地理的分野研究プロジェクトチームの研究活動の経過を整理したのち、実際の授業内容を簡単に紹介する。その後、上記プロジェクトチームと本共同研究事業との連携の状況を整理し、最後に本共同研究の成果と課題を簡単にまとめて結びとする。

II 地理的分野研究プロジェクトチームの研究活動の経過

本章では、地理的分野研究プロジェクトチームの活動経過を整理する（表1）。本章の内容は『和歌山発!! 持続可能な地域の担い手を育てる社会科授業』¹⁾（『報告集』）に基づくものであり、プロジェクトチームによる研究成果の詳細は『報告集』を参照されたい。

2023年11月開催の近畿大会での公開授業実施に向け、伊都地方と海草地方の教員が中心となって地理的分野研究プロジェクトチームが結成され、授業者は伊都地方の橋本大貴先生（橋本市立紀見東中学校）に決まった。本プロジェクトチームでは、近畿大会の研究主題「和歌山発!! 持続可能な地域の担い手を育てる社会科授業」を踏まえ、①生徒たちが対話を通し、主体的に公共圏を創造しようとする態度を養うこと、②研究メンバー自らが持続可能な研究体制を構築し、公共圏を創造すること、の2点を目標に掲げ、研究の副題を「対話を通した『公共圏の創造』を目指して」に設定した。ここ

表1 地理的分野研究プロジェクトチームの研究の流れ

実施月	内容
2022年12月	近畿大会に向けた和県中社研特別研修会：取り組みの開始
2023年 2月	近中社第15回社会科教員交流会：岩野准教授（本学、当時）の講演
2023年 3月	授業づくりの基本方針決定
2023年 3月	第1回地理的分野プロジェクト会議：研究の方向性
2023年 5月	第2回地理的分野プロジェクト会議：録画に係る体制づくり
2023年 7月	地理的分野プロジェクト会議公開授業（プレ実践）
2023年 8月	第3回地理的分野プロジェクト会議：単元を貫く問いの設定
2023年 8月	和県中社研夏季研修会：各分野より成果と課題の交流
2023年10月	公開授業指導案と提案発表原稿の検討
2023年10月	公開授業撮影
2023年11月	第29回近畿中学校社会科教育研究会和歌山大会

『和歌山発!! 持続可能な地域の担い手を育てる社会科授業』41頁より一部加筆・修正のうえ引用。

という公共圏とは、人々が生活の中で共通の関心をもつことによって成立する空間のことを指す。

本プロジェクトチームによる研究が本格的に始まったのは、2022年12月実施の和県中社研特別研修会（冬季研修会）からである。ここでは、2022年5月に決定していた研究主題「和歌山発!! 持続可能な地域の担い手を育てる社会科授業」について、どのような授業を構想するかが話し合われた。その後、2023年2月に行われた近畿中学校社会科教育研究会「第15回 社会科教員交流会」における本学の岩野清美准教授（当時）²⁾の講演内容を踏まえ、3月に授業づくりの基本方針を定め、第1回プロジェクト会議での議論を通して、図1に示される研究の方向性を定めた。その後、近畿大会において地理的分野は授業を事前に録画し、当日は録画した授業を上映する形で公開授業を実施することとなったため、5月の第2回プロジェクト会議で、授業の録画に係る体制づくりを行った。

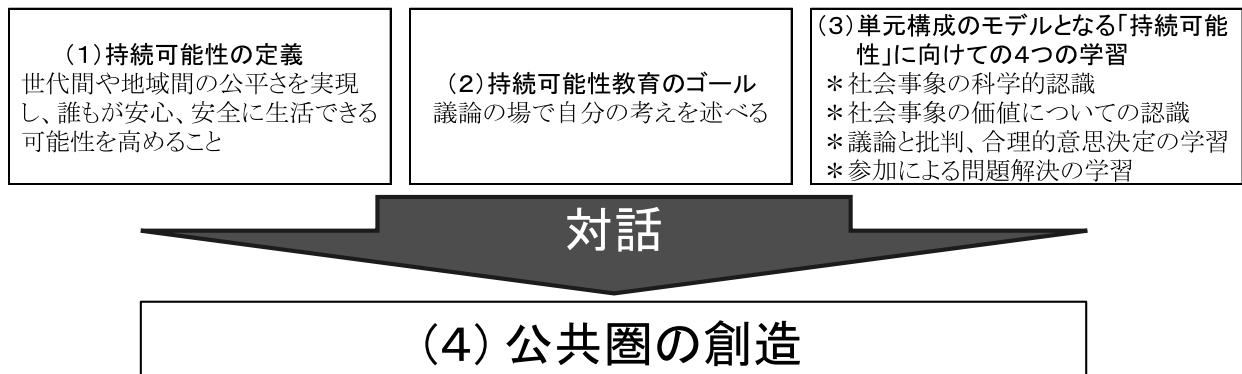


図1 授業づくりの柱となる4つのポイント

『和歌山発!! 持続可能な地域の担い手を育てる社会科授業』42頁より一部加筆・修正のうえ引用。

7月には公開授業の実施に向けたプレ実践の授業を行い、「生徒が自分の考えを述べ、互いに議論を深めるにはどのような方法が考えられるか」検討した。この授業では生徒から様々な意見が出され、活発な議論が行われたものの、議論の整理が難しく意見の発表会に留まったとの反省から、8月の第3回プロジェクト会議では、授業のなかで、多様な意見を尊重しつつ議論を深めていくにはどのような工夫や対応が必要かを検討した。その後、ここでの議論を踏まえて、橋本先生を中心として、プロジェクトチームで授業内容を具体化していくとともに、発表原稿の執筆や公開授業の撮影の準備を進めた。そして10月に公開授業を撮影し、その後に授業動画の編集作業を行った。11月の近畿大会本番では、和歌山城ホールの小ホールにて、録画した授業を上映する形で公開授業を実施した。

III 橋本先生による授業の概要

本章では、橋本先生によるプレ実践と近畿大会での公開授業の概要を整理する。本章の内容は、プレ実践は橋本先生による配布資料³⁾に、後者は『報告集』に依拠して執筆した。

プレ実践では、ヨーロッパ州の単元のまとめの授業が行われた。授業では、「日本はヨーロッパ州の北海に浮かぶ島国である」と仮定して、「持続可能な社会を実現するためには、ヨーロッパに位置する日本はEUに加盟すべきか？」を議題として、生徒たちが議論を行った。一方、近畿大会での公開授業では、北アメリカ州の単元のまとめの授業が行われた。授業では、「アメリカは『持続可能な社会』でも、世界をリードし続けるだろうか？」を議題として、生徒たちが議論を行った。

これらの授業では、一斉指導において活発な意見交流が行われて学習内容を深化させることを目指し、「脱グループ」の話し合い授業が実践された。具体的には、これまでの学習内容を踏まえて各生徒が調べ学習を行い、その成果をもとに各生徒が自分の意見をクラス全体に向けて発表し、全体と

して議論を重ねていくというものである。意見の表明のさいは、根拠となる資料をタブレットやモニターを活用してクラス全体に発信できるようにするとともに、それらをクラス全員で共有していた。加えて、議論の前に、各生徒は自分の意見として EU に加盟すべきか否か、もしくは持続可能な社会でもアメリカは世界をリードできるか否かについて、ホワイトボードの座標軸上に自分の立場を示し、議論が終了したのちに自分の意見の立ち位置が変わったかどうかを座標軸上で改めて示して、自分の立場が変化した／しなかった理由を発表して授業を終えた。

以上の授業実践において、日々の授業からペア学習を充実させ、意見を伝えあうことが習慣づけられていた。また、クラス全体の議論の場面では、「コの字型」の隊形を取って相手の顔が見えやすい形にするとともに、相互指名制を取り入れ、生徒同士で話し合いが進むようにした。上述の通り、各種資料はクラス全体で共有しており、また事前学習で情報交換をしていた生徒もいたことから、相互指名制による話し合いはスムーズに展開していた。加えて、クラス全体の議論に入る前や生徒の意見のなかで確認すべき内容が出てきたときなど、教員から当該単元での学習内容の確認が行われた。このようにして、①既知（既習の知識）と未知（本時での学び）がつながること、②自己の考えと、他者の考えがつながること、③知識と自分がつながること、の3つ「つながる」ことを通して学習内容を深化させるとともに、相互に関わり合い、刺激し合い、影響を与え合うクラス単位の学習環境に、対話を通じた「公共圏」を育むものとなることを企図した授業であった。

IV 地理的分野研究プロジェクトにおける本共同研究事業の連携

I で述べたように、本共同研究事業は、地理的分野研究プロジェクトに途中から参加した。その経緯は以下の通りである。まず、2023 年の 4 月、本学附属中の山口先生から、近畿大会での公開授業の実施に向けてサポートしてほしい旨の依頼があった。山口先生は近畿大会の研究部長として和県中社研の研究体制の構築に取り組んでおり、大学の研究者や教育委員会の指導主事を含めた授業研究のネットワークづくりを進めていた。この山口先生からの依頼を受け、伊都地方社会科教育研究会を取りまとめている阪中宣之先生（九度山町立九度山中学校）に山神から本共同研究事業への参加をお願いした。山神は 2022 年 8 月に岩野准教授からの誘いを受け、同研究会の研修会で「和歌山県と橋本市の人口動態と地域の持続性―「持続可能な地域を作る担い手を育てる社会科授業」に向けて―」と題する発表を行っていたことから、阪中先生とのつながりがあった。こうして、地理的分野研究プロジェクトと連携する形で本共同研究事業を行うこととなり、阪中先生のほか授業者の橋本先生と山口先生に共同研究者になっていただいた。以上の経緯から、本共同研究事業では、独自に何かに取り組んだものはなく、地理的分野研究プロジェクトの活動をサポートするという形での連携となった。

この連携で山神が参加したのは、2023 年 7 月のプレ実践と 8 月の第 3 回プロジェクト会議である。プレ実践では、生徒たちが活発に議論している姿、そして生徒たちの調べ学習の幅の広さや深さに驚いたが、授業としては議論が散漫となり、各自が意見を表明し合うだけに留まった感じが強く、EU が抱える問題について共通理解が深まっていく印象は弱かった。こうした課題は授業者だけでなくプロジェクトチーム全体で共有されており、授業後の協議会では、どのようにすればクラス全体として共通理解が深まっていくかが議論された。そのさい、教師は議論のファシリテーターに徹し、特定の方向に生徒を誘導しないことが重視された。次に参加した 8 月の第 3 回プロジェクト会議では、アメリカ州の単元のまとめとなる公開授業の内容について議論がなされた。授業で議論する内容は「アメリカは『持続可能な社会』でも、世界をリードし続けるだろうか？」に定まり、プレ実践での反省を踏まえ、多様な意見を尊重しつつ議論を深めていくにはどのような工夫や対応が必要か検討した。

以上のように、これらの会議で中心的に議論されたのは、生徒の発言をどう引き出すか、またそれらをどのように整理していくかという点であった。会議において山神は、内容専門の大学教員の立場から、教科書や学習指導要領の内容を踏まえ、各単元で学ぶべきことが踏まえられているかを中心に議論の内容を確認していたが、それぞれの域内における格差や多様性を考慮した議論が進められるとともに、要所要所で学習内容の確認が行われており、内容面で注意を促すものはなかった。また、生徒たちの意見の整理の方法に関して、グローバルな企業から地域の消費者まで、空間的スケールや発言内容の立ち位置に多様性があることに注意を促し、農業や工業など特定の産業を絞ることで生徒たちが議論しやすくなるのではないかとの案を出した。この案も含めて活発な意見交換が行われ、特定の産業に議論を縛ることなく様々な視点から情報をつなぎ合わせることを授業の目標と定めた。この話し合いの流れも納得できるものであった。

地理的分野研究プロジェクト会議への参加は以上の2回であったが、本共同研究事業の一環として、近畿大会の本番に向けた準備委員会（10月、河北中）、近畿大会本番（11月、和歌山城ホール）、近畿大会後の和県中社研冬季研修会（12月、本学附属中）にも参加した。近畿大会での地理的分野の公開授業（録画上映）は、プレ実践の時と同様に生徒たちが活発に意見を交わすとともに、プレ実践での反省を踏まえ、議論の方向も定まり、生徒たちの意見が積み重なることで北アメリカ州に関する理解が深まる興味深い内容であり、参加者の関心を惹きつけていた。また、山口先生による基調提案を通して、学校現場と教育委員会、大学とが持続可能な連携を深めていくことの重要性を再確認したほか、会場で教員となった卒業生と再会するなど、実りある大会となったが、参加者の女性比率の異様な低さが気になった。12月の冬季研修会は近畿大会の成果と課題を共有する場であり、大会参加者の感想などが披露された。全体および各分野で反省点はあるものの、参加者からの評価は総じて高いものであり、和県中社研の熱心な取り組みが結実した充実した大会であったといえる。

V おわりに

以上に整理したように、「第29回近畿中学校社会科教育研究会和歌山大会」での公開授業の実施に向け、和歌山県中学校社会科教育研究会地理的分野研究プロジェクトチームは熱心に活動に取り組んできた。本共同研究事業では、プロジェクトチームの活動をサポートすべく連携し、多くのことを学ばせていただいたが、チーム活動への貢献度という点では甚だ心もとない。そのなかで特に印象に残っているのが、授業で取り組んだ「公共圏の創造」という点について、各プロジェクト活動を通して、教員によるチームとして「公共圏」が作られていったという感想が多かったことである。公開授業の実施という目標に向け、多くの人が意見を出し合い、議論を通して一つの方向性を導き出していく過程に「公共圏の創造」を相互に認識できたことから、本プロジェクトの目標②の一端は達成したといえよう。今後、かかる活動を持続可能なものにできるかが問われることになるだろう。よりよい授業の実現に向けた先生方の活動に対し、微力ではあるが今後もサポートしていきたい。

注

- 1) 近畿中学校社会科教育研究会・和歌山県中学校社会科教育研究会編 2023. 『和歌山発!! 持続可能な地域の担い手を育てる社会科授業』（第29回近畿中学校社会科教育研究会和歌山大会・令和5年度和歌山県中学校社会科教育研究会和歌山大会報告集）.
- 2) 岩野清美准教授は2023年3月末をもって本学を退官された。
- 3) 橋本大貴「社会科学学習指導案（単元名：ヨーロッパ州—国境を越えた統合をテーマに—）」和歌山県中学校社会科教育研究会地理的分野プロジェクト会議公開授業（プレ実践）配布資料（2023年7月18日、橋本市立紀見中学校）.